

すこやか公園づくりアピール

身近な公園を私たちと未来の QOL 向上に活かすために

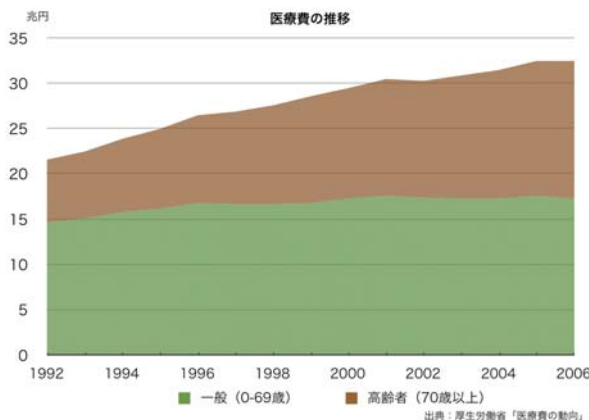


2010年1月
社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会
(仮称) CLA すこやか公園検討委員会

1. 医療費の膨張が暮らしを圧迫しています

今、私たち日本人が支出する医療介護費は年間 40 兆円を超え (H20 年度)、毎年 2% ほど増加しています。その額は家計総支出の 13% にのぼります。

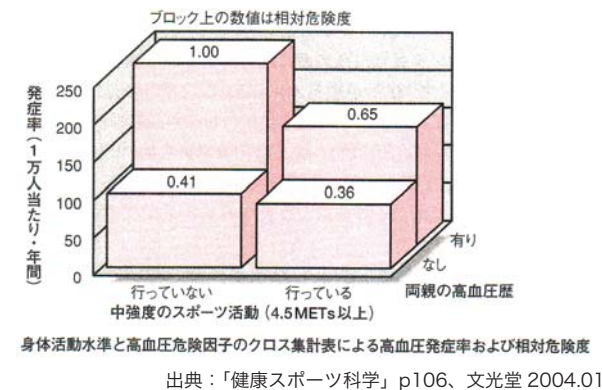
少子高齢化で生産人口が減少し、地球環境問題で経済活動が制約されようとしている私たちの未来にとって、医療費を抑制することは QOL (生活の質) を確保するために、非常に重要な課題となっています。



2. 健康活動は医療費抑制に効果があります

医療費は疾病の発生・重症化と関連し、これは「生活行動 (健康行動)」と強い相関を持っています。特に重要な要因が「運動」「肥満 (過食)」「喫煙」であるとされます。

その中でも軽スポーツを中心とする「健康活動」が重要であることが最近の研究で、疫学的にも明らかになってきました。



3. 身近でコストのかからない健康活動機会が必要です

しかしこれまでは「健康活動 = フィットネススポーツ」と見られ、健康活動はそのための施設 (フィットネスクラブなど) で、コストを支払って行うもの、という意識が強くありました。そのため、年金生活の高齢者、地方生活者、低所得層や若者など、多くの階層の人々が、健康活動の機会から遠ざけられています。

4. 健康活動は「運動」だけではありません

さらに近年、老人の認知症だけでなく、子どもの学習機能障害、成人の鬱病や適応障害など、精神的な健康の問題がクローズアップされています。閉ざされた環境での機能的な健康運動だけでは、私たちの健康を維持・増進・回復することはできません。

豊かな自然、美しい景観、楽しい会話などと「運動」がともに必要です。

5. 自然・ひと・健康の空間。それが「公園」です

私たちの身近にあり、だれもが利用できて、総合的な「健康活動」の機会を満たしてくれる可能性を持つ空間。それが「公園」です。今までの公園では、こうした視点にほとんど目が向けられてこなかったのではないのでしょうか？

高密度な都市の中の単なる「オープンスペース」ではなく、私たちと未来の QOL のための「新しい公園づくり」が、今、求められていると考えます。



東京都足立区「花畑公園」

足立区では、毎週土曜日花畑公園で「パークで筋トレ」事業を実施しています。

写真は足立区 HP、<http://www.city.adachi.tokyo.jp/> より転載

6. 日本の公園を「すこやか公園」にしていきましょう

今、日本には暮らしに身近な公園 (住区基幹公園 = 街区 + 近隣 + 地区) が 84,506 箇所 (H21.3.31) あります。身近な公園は、毎日、歩いて行き、親しい人たちとともに、季節を感じ、会話を楽しみ、ともに汗を流す「健康な暮らし」の資源です。

私たちはその拠点となる「すこやか公園」を未来に贈りたいと思います。

裏面の「すこやか公園への提案」をご覧ください。



社団法人ランドスケープコンサルタンツ協会
〒102-0082 東京都千代田区一番町 9-7 一番町村上ビル 2 階
TEL : 03-3237-7371 FAX : 03-3239-7610
<http://www.cla.or.jp/>

すこやか公園への提案

私たちは、「すこやか公園」をつくり、育て、活かして行くために、以下の取組みを進めて行くことを、関係するすべてのみなさんに、提案します。

すこやか公園づくりの全国展開

- A. 全国の、身近な公園を「すこやか公園」にリノベーション
- B. 「すこやか公園」づくりに向けた制度づくり

すこやか公園の先行的整備

- C. 公園を「すこやか活用」するハード整備
- D. 公園を「すこやか活用」するソフト整備

すこやか公園への条件把握

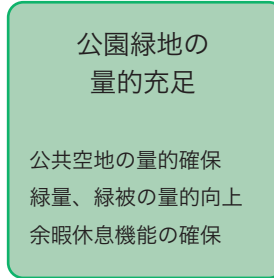
- E. 公園の「すこやか利用」の実態の把握

A. 全国の、身近な公園を「すこやか公園」にリノベーション

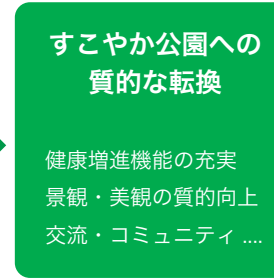
これまでの公園の「量的充足」が目標でした。私たちは、これからは公園の「すこやか機能」の創出と充実を目標として、公園の「中身」を見直し、「すこやか公園」へと作り替えて行くことを提案します。

全国の公園、特に街区公園を中心とする住区基幹公園を「すこやか公園」へとリノベーション（再整備）していきましょう。

これまで



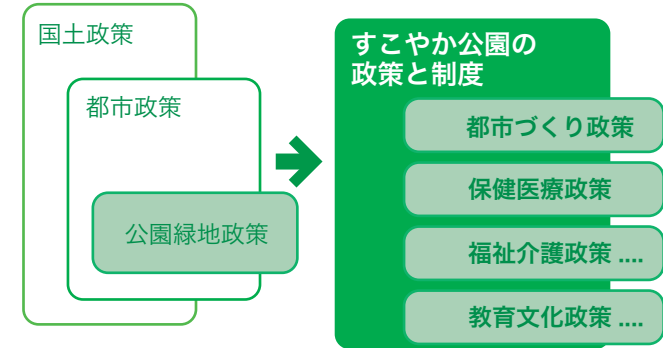
これから！



B. 「すこやか公園」づくりに向けた制度づくり

これまでの公園の整備と維持管理は、国土交通省（政府）／建設部局（自治体）の領域でした。

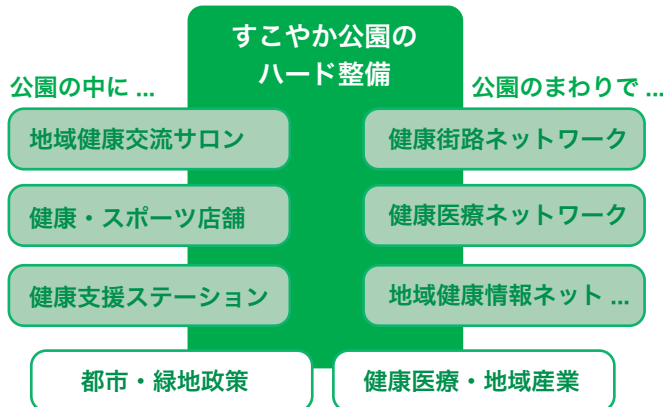
これからは、公園の「すこやか機能」の充実と活用にふさわしい、都市・建設行政と保健・医療、教育・文化、地域コミュニティなど多様な政策分野が連携する、新しい制度基盤づくりを進めましょう。



C. 公園を「すこやか活用」するハード整備

これまでの、公園と「すこやか関連ハード（街路、医療保険施設など）」との一体的な整備の視点はほとんどみられませんでした。

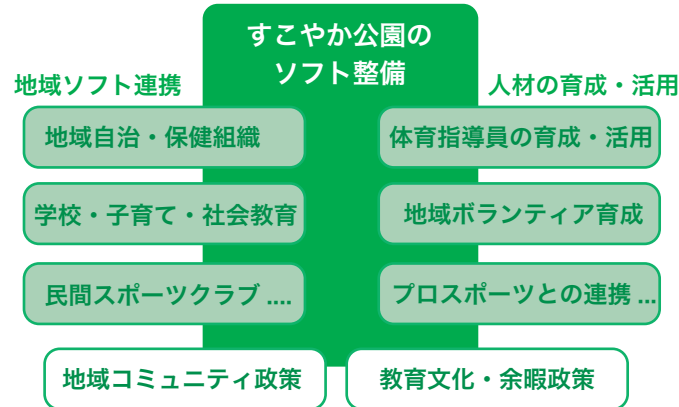
これからは、居住・生活空間、移動空間、民間を含む健康支援施設などを、公園と連携する「すこやかハード」として整備するとともに、そのネットワークづくりを進めましょう。



D. 公園を「すこやか活用」するソフト整備

これまでの、公園の維持管理や活用と「すこやか活動」「すこやか人材」は、一体として考えられて来ませんでした。

これからは、学校や保健医療、民間の健康産業、地域のスポーツクラブなどを連携し、すこやか公園を育て活かす「すこやかソフト」の整備と地域での人材育成を進めましょう。



E. 公園の「すこやか利用」の実態の把握

これまでの公園にも「すこやか機能」として活かせる公園や施設、機能はたくさんあります。またすでに、優れた「すこやか活用」の事例もあります。

まず、全国の公園を「すこやか公園」の視点で総点検し、既存の施設機能を活かし、優れた事例に学ぶことを通じて、実施効果の高い公園（例：日常利用度の低い防災公園など）から取組みを進めましょう。

